

サポートチームだより

全市町村への訪問終了 ～着実な取組の進捗を確認～

〈「地域移行できるものは何か」検討進む〉

令和6年（2024年）5月16日から7月4日にかけて十勝教育局による市町村教育委員会訪問を実施しました。訪問は十勝管内19市町村において行い、各市町村教育委員会の担当者から、進捗状況と今後の取組について報告を受けました。また、十勝教育局からは、今後の取組における助言や情報提供等を行いました。

訪問では、協議会等を設置予定の自治体全てで「会議体（協議会のほか、準備、検討、関係者会議など）」の設置が報告され、着実に取組が行われていることが確認されました。また、市町村間の連携については、各方面において人数の確保が難しい競技における合同チームへの対応等について検討が行われていることを確認しました。

また、令和6年度から新たに地域クラブとして登録を行った競技があるなどの取組が報告された自治体もあったほか、「地域移行できるものは何か」を検討しているとする自治体を多数確認することができました

「地域としてどんな取組ができるか」 ～中札内村中間報告・意見交換会～

〈指導者のいない日をつくらない〉

令和6年（2024年）7月22日（月）、中札内村文化創造センターにおいて「部活動地域移行地域連携の中間報告と意見交換」（主催：中札内村部活動地域移行推進協議会ほか）が参加者約50名により行われ、当局担当者も参加しました。会では剣道少年団とバドミントン協会から現在の取組や課題について報告があり、「大人の練習日を生徒の練習日に合わせ指導（剣道）」していることや「共有アプリを使用し、参加を調整することで練習日に指導者がいない日をつくらない（バドミントン）」などの工夫を行っていることが報告されました。

〈学校と自治体が協働で〉

次に全十勝中学校体育連盟会長（帯広第八中学校長）**桜井 知克**氏による情報提供「各競技における、全十勝（全道）中学校大会参加資格について学ぶ」（=写真1）が行われ、中体連への地域クラブ参加についての説明や学校側から見た地域移行についての講話があり、桜井会長は「学校と自治体が協働して取り組んでほしい」と述べられました。

〈部活動ごとに方向性を〉

続いて中札内村教育委員会 部活動地域移行コーディネーター **高橋 慎**氏より令和6年度の取組と方向性が説明され「部活動ごとに方向性を出していきたい」とし、中札内中学校の部活動ごとに説明を行いました。

最後に参加者全員がグループに分かれ、「地域としてどんな取組ができるか」をテーマに意見交換を実施。参加者からは積極的な意見が出されていました。（=写真2）

高橋コーディネーターは「これからは学校・地域・行政の連携が重要と考えている。協働で取り組んでいきたい」と述べられました。



（写真1）情報提供の様子



（写真2）意見交換の様子